

水郷水都における水辺環境の変遷に関する研究
 Research on changes of the waterfront environment in Waterpolises Suigo

○石井沙耶¹, 高橋智子¹, 畔柳昭雄², 坪井塑太郎³

*Saya Ishii¹, Tomoko Takahashi¹, Akio Kuroyanagi², Sotaro Tsuboi³

Abstract: This paper catches changes of the utility from in Waterpolises Suigo located in the Tonegawa downstream site, and aims at clarifying the state of Waterpolises Suigo which forms city scenery. The utility from were classified into four for industrial use, sightseeing use, a festival and event use, and parent water supplies. As a result, although it was Waterpolises Suigo mainly mostly used as industrial use a long time ago, it is used as a tourist resort crowded with many tourists by the sightseeing city planning by the event of a resident subject now. From this, the river of Waterpolises Suigo which existed at the center of an infrastructure is considered to change to the river which leads to city image formation.

1. はじめに

近年、河川や運河の水環境を活かしたまちづくりや水辺空間の整備、再生が注目されてきている。そのため、全国各地における地域特有の水に関する様々な取り組みが積極的に推進されるようになった。このような取り組みの代表例として、大河流域の水の豊富な地域における“水郷観光まちづくり”が挙げられる¹⁾。これに合わせて、地域特有の歴史的町並み保存事業を推進する取り組みも行われ、観光資源として活用されるようになった。しかし、“水郷”発祥の地である、利根川下流域における水郷地域では、観光化された経緯は明らかにされていない。

そこで本研究では、水郷地域における観光化の変遷を捉え、歴史的な環境としての水辺の特性を反映した地域形成を明らかにする。

2. 調査概要

本研究の調査対象地・調査概要を Figure 1 に示す。本研究では、茨城県・千葉県を跨る利根川下流域に位置する水郷地域を対象に、水郷としての地域特性と水に関連した歴史・伝統を活かしたまちづくりを展開している千葉県香取市の小野川、茨城県潮来市の前川・北利根川の2か所を調査した。

3. 結果及び考察

小野川、前川・北利根川における利用形態の変遷を利用形態別及び周辺地域の出来事にまとめたものを Table 1 に示す。利用形態は河川での行為として、産業利用(農業、漁業、運搬業、醸造・酒造業)、観光利用、祭り・イベント利用、親水利用の4つに分類した。



Figure 1. Outline of the study

3 - 1. 小野川の変遷

小野川は千葉県香取市、旧佐原市の中心部を南北に流れる、利根川の支流である。江戸時代初期において、小野川は主に灌漑用水として利用され、水田までの移動手段としてサツパ舟と呼ばれる手こぎ舟を使っていた。江戸時代中期から明治時代において、利根川東遷事業により東廻り航路が確立され、小野川は舟運の拠点となり、物資を陸上げする「だし」と呼ばれる河岸施設が両岸に作られると共に間屋街が形成された。

一方で、明治時代後期から陸上交通機関が整備され、舟運は次第に衰退していった。1927年に佐原の住民の推薦投票により、利根川下流域の水郷地域が「日本八景」²⁾の二十五勝の首位を占めた。これを機に、水郷地域は全国的に知名度を高め、観光を意識した小野川を

1 : 日大理工・学部・海建 Nihon-U. 2 : 日大理工・教員・海建 Prof, CST, Nihon-U., Dr. Eng.

3 : 日大理工・教員・海建 Assistant Prof, CST, Nihon-U., Ph. D.

含めた歴史的町並みを保存する取り組みが始まった。

現在は、観光船が就航しており、年間約 53 万人が訪れる観光地となった。

3 - 2. 前川・北利根川の変遷

前川・北利根川は、茨城県潮来市を流れる利根川の支流である。江戸時代から大正時代において主に灌漑用水として利用され、水田を縦横に張り巡らす江間(水路)へと流れていた。また、江間から前川・北利根川へ、農民がサップ舟で年貢米の運搬や移動を行っていた。1700 年頃より、幾度の大洪水による不作が続く、これを機に、文人を乗せたサップ舟で寺社巡りという観光利用を行い、前川・北利根川周辺は遊興地として賑わった。戦後の高度経済成長と共に、鹿島地区に臨海工業地帯が造成され、霞ヶ浦を水源とした工業用水道の敷設により、土地改良事業で江間が埋め立て

られ、農業利用は消失した。その後、臨海工業地区の後背地として、観光地・住宅地の役割を担うことで、遊覧船による観光利用が図られるようになった。

現在は、毎年 6 月に行われる、嫁入り舟や遊覧船など水郷ならではのイベントで約 80 万人が訪れる観光地となった。

4. おわりに

本研究の結果、江戸時代から、農民や船頭の副業として、運搬・自家用の舟を観光船として利用していたが、時代と共に形態を変え、現在では遊覧船や住民主体の観光まちづくりによって、水郷地域は多くの観光客を集めている。これより、灌漑用水として使われていた水郷地域が、水郷観光地の形成につながる水路へと変化していることが明らかとなった。

Table 1. Changes of the forms of use of Maekawa, Kitatonegawa and Onogawa

時代	年代	産業利用	観光利用	祭・イベント利用	親水利用	備考	周辺地域の出来事
江戸	1600	淡水魚・海水魚が獲れる サップ舟で貢納米を運ぶ(内川渡し) 新田開墾が始まる 江間で食器や米を洗う 東北諸藩の年貢や物資を潮来経由で江戸へ東廻り航路	水郷遊覧船(木下茶船)流行 三社詣(鹿島・香取・息柵)	1204~ひげなで祭 1391~御田植祭 上戸の獅子舞		船頭の世話をする舟女が増える 遊郭設置 盛り場で栄える 潮来節	1594~1654 徳川家康 利根川東遷事業 1673 佐原用水が完成(農業用水) 水戸光圀公板入村を潮来村と改める
	1700	酒造・醤油醸造開始 利根川の本流が佐原に移り物流中継の機能を失 高瀬舟で物資輸送	文人墨客来訪 外輪蒸気船航路	佐原大祭 忠敬朝前祭			大洪水 各地で堤防建設が進む 1846 利根川洪水
	1800	水運による物資輸送の拠点となる	文人墨客来訪				
明治	1900	蓄乾開始 福徳村農会創立 二毛作稲作法を漁業組合が認可する 柳佐原朝来市場が設立				陸上交通(鉄道)が整備され水運が衰退していく 商業の衰退(河港商業・醸造業)	1917~1922 横利根川開門開張工事 1919 開墾成施工(農地干拓が始まる) 1924 小野川竣工、伊徳忠誠銅像竣工
	1920	渡し舟で移動 蒸気船「通運丸」の就航			川遊びで賑わう		1917~1922 横利根川開門開張工事 1919 開墾成施工(農地干拓が始まる) 1924 小野川竣工、伊徳忠誠銅像竣工
昭和	1950	コイの養殖の推奨(農家の副業) 渡し舟廃止 土地改良事業により殆ど江間は埋没(千葉県営圃場整備事業)	水郷汽船会社が水郷遊覧船を開始 水郷佐原観光協会設置 日本観光連盟に加盟 日本観光地百選(毎日新聞に認定) 佐原駅に観光案内所設置 北総観光連盟(結成(成田・佐原・銚子)) 駅前に歓送迎一丁のネオン塔建設 水郷佐原水生植物園(開園(あやめ園)) 水郷汽船廃止	あやめ祭り 戦後初の山車祭 アサ祭大会 嫁入り舟が全国に広がる 「上戸の獅子舞」が茨城県指定文化財に選ばれる 前川あやめ園	川遊びで賑わう(年間約218人/旅館) 遊泳場が閉鎖 常陸利根川で釣りが賑わう 水郷で漁	潮来は臨海工業地区の後背地として位置づけられていた 自然景観の保全に努めた観光・レジャー・リゾート施設の整備拡充 環境良好な住宅地の供給及び商業文化施設の整備 地空ひびきが潮来の歌を広める 売春禁止法により遊郭廃業 アオコ大発生 小野川沿いの商店街衰退	1927 日本八景 選定の大規模な土木事業(志保川開削)の完成(志保川開削)の完成(志保川開削) 1931成田線佐原~成田間開業 1933成田線佐原~成田間開業 1938 利根川洪水 浸水被害 1953「佐原港止つぐの竣工」 1958 水郷固定公債指定 1958 水郷佐原市釣魚遊覧船結成 1961 霞ヶ浦海水工業地帯造成計画 1962 上水道供給開始(常陸利根川水源 潮来水場) 1964 潮来大橋竣工 1965 西経用水完成 佐原利根川改修 利根川河口築計画 1972 前川水門完成
	1990	潮来町開発公社が前川十二橋を巡る遊覧船を開始		ハス祭り 嫁入り舟復活 潮来月まつり		佐原地区は関東地方初の認定	1978 成田空港 開業 1979 常陸大橋開通 1990 町並み保全活動開始(住民主体) 1993 佐原市佐原地区町並み形成基本計画 1994「佐原市歴史の寶蔵集」発行 1996「重要伝統的建造物群保存地区」認定 2001 潮来町と牛堀町が合併し、潮来市となる 2004「重要無形民俗文化財」認定 2006 佐原市、小見川町、山田町、栗源町が合併し、香取市となる
	平成		優秀観光まちづくり大賞受賞				

5. 補注及び参考文献

1) 大辞泉より、水郷とは、①湖や川の景色が美しい町や村。水村。②茨城県・千葉県境の利根川下流の低湿地帯の商。佐原・加藤洲中に供・十六島・潮来などを含む地域をいう。
2) 山岳、溪谷、瀑布、温泉、湖沼、河川、海岸、平原の 8 部門について、投票による推薦を募集し、各部門上位 10 位を選定。また、八景の選に漏れた景勝地の中から、日本二十五勝を選定。

[1] 佐原市：「佐原市史」, 652-857, 1986

[2] 潮来町史編纂委員会：「潮来町史」, 25-796, 1996